

# 大野市教育環境調査研究委員会 会議結果概要

日 時：令和5年2月24日（金）午後7時00分～9時15分

場 所：結とぴあ 2階 201、202号室

<出席者>

大野市教育環境調査研究委員会 出席者名簿

No.	所属等	氏名	分類	備考
1	国立大学法人福井大学	まつき けんいち 松木 健一	第1号委員	理事・副学長
2	大野市小中学校校長会	やまだ よしのぶ 山田 善信	第2号委員	和泉小中学校長
3	大野市区長連合会	おおたに せいじ 大谷 誠治	第3号委員	副会長
4	大野市PTA連合会	しみず よしひろ 清水 啓宏	第3号委員	会長
5	大野市立保育園保護者連合会	みなみ しょうご 南 彰悟	第3号委員	副会長
6	大野市民間保育園保護者会連合会	はせがわ ともひろ 長谷川智大	第3号委員	会長

大野市教育委員会出席者名簿

No.	所属等	氏名	職名	備考
1	大野市教育委員会	くぼ としたけ 久保 俊岳	教育長	
2	大野市教育委員会	さなだ まさゆき 真田 正幸	事務局長	
3	大野市教育委員会 教育総務課	さしおか てつろう 指岡 哲郎	課長	
4	大野市教育委員会 教育総務課	せんだ たすく 千田 佐	学校教育審議監	
5	大野市教育委員会 教育総務課	こばやし かつのぶ 小林 勝信	課長補佐	
6	大野市教育委員会 教育総務課	まつま けんしろう 松間 建志郎	指導主事	

<傍聴者>

なし

## 1 開会

## 2 教育理念唱和

## 3 委嘱状交付

## 4 教育長あいさつ

委員の皆さんには、大変お疲れの中、夜分ご出席いただいたことにお礼申し上げます。そして松木委員におかれては、令和元年のシンポジウム、また、昨年度までの再編計画検討委員会の委員長として、大変お世話になったことにこの場を借りてお礼を申し上げます。

私の見聞きする範囲内では、学校再編は全国的な課題であり、審議会や検討委員会を開催して協議されているが、その答申や報告などをもって、審議会や検討委員会が終わることが一般的な形かと思う。

大野市は、検討委員会15名だったが、規模を縮小した会議で毎年毎年、再編の進捗や教育を取りまく情勢を見ながら、市民の皆さんも一緒に協力していただいて前に進めていきたいと思っている。

委員の皆さんに再編の状況が伝わっているのか、皆さんから見て再編の進め方をどのように感じているのかなど、そのようなことも含めてお話をお聞かせいただけるとありがたいと思う。

学校の再編を機会に、大野市の教育環境を総合的に整備していくこととしている。単なる学校の再編でなく、中学校の統廃合から50年経った大野市の現在の状況を見つめ直していこうという取り組みである。

そのようなことも含めて、皆さんのご意見を多方面からいただけるとありがたいと思う。

一言お礼とお願いを申し上げ、私のあいさつに代えさせていただく。

## 3 正副委員長選出

委員長に松木健一委員、副委員長に山田善信委員を選出することを、全会一致で選出した。

## 4 次第

(1) 大野市教育環境調査研究委員会の役割について

――事務局から説明、委員からの質問、意見なし――

(2) 大野市の教育の現状について

――事務局から説明――

【委員長】再編計画検討委員会の会議で、中学校の校長先生から、統廃合をしていかなければいけない理由の一つとして、子供たちの数が少なくなり、中体連の大会に参加することが非常に難しくなるから、学校を大きくしていくことが必要だというなお話があった。

その一方で、それは本末転倒で中体連の大会に出られないのであれば、そのルールを変えていくことを国に働きかけていくべきで、学校を超えて子どもたちが集まったチームでも参加できるようにしていく方が良いのではないかという話も出た。

大野市でそのような議論をしていた後に、働き方改革の関係が一番大きいかと思うが、部活動の地域移行が国の方から示され、見直しをするという話が出てきている。

福井県で見ると、大野市が取り組んでいるのは早い方ではないか。取り組んでいる中で新たな課題が出てくる。例えば、説明の中では市内から生徒が集まることになるため、保護者の負担が増える。あるいは、平日の学校部活動と土日の地域での活動をつなぐための先生方の負担が増える懸念がある。課題はある意味、初めから見えていたと思うが、課題の解決に向けてどのような方向を今見ているのか、何か情報があればお聞かせいただきたい。

【事務局】まず、再編計画検討委員会の会議で、委員から部活動の意見も出されていた。

ただし、部活動ありきで中学校の再編を進めるということではなく、それも一つのこととして考えていきたいということとなった。

現在は、休日の運動部の地域移行ということをしている。国の中体連の大会に地域スポーツクラブの参加が認められ、県の中体連の大会にもその参加が認められる方針が出された。このことで、来年度からは地域のスポーツクラブが、中体連の大会に参加ができることになる。

現在、大野市で地域移行の試行をしている三つの競技団体、サッカー、軟式野球、バスケットボールは中体連の大会に参加するのではなく、サッカーではクラ

ブチームの試合がたくさんあり、上位大会に結びつく大会もあるので、クラブチームの大会に参加すると聞いている。

それから、バスケットボールとか軟式野球は、現状を見ながら考えていきたいということで、令和5年度に関しては中体連の大会に参加するとは聞いていない。学校の部活動からも、バスケットボールや軟式野球は中体連の大会に参加できるようになっているので、中体連の大会の参加条件で、学校部活動とクラブチームの両方から生徒が参加できないとされている。

保護者負担については、今年度に国の委託事業を受け実践研究を行っている。

それぞれの地域スポーツクラブで保護者から会費を集めて、指導者の謝金やボールなどの消耗品などを購入する経費を賄っている。国からの委託金を、経費の一部に充てている。

学校の部活動では活動にケガをすると、日本スポーツ振興センターの保険があるが、地域スポーツクラブは学校の部活動でなくなるため、民間の保険に加入する必要がある。この保険料はじめとする会費のあり方も含めて、今年度の委託事業の中で実践しているところである。

そして、地域スポーツクラブに参加している生徒の保護者にアンケートをとり、保護者が会費として出せる金額をなども聞きながら、保護者負担の解決に向けて検討したいと考えている。

自宅から練習会場などまでの送迎は、それぞれの地域クラブができる限り自転車で通える範囲で会場を確保するといった工夫をしているが、冬期は降雪もあるので、冬の活動での送迎の課題が出てくることが予想していて、今後検討する必要があると考えている。

また、複数の学校が集まったの地域スポーツクラブの活動になるので、道具の置き場が問題になってくる。学校の部活動と地域スポーツクラブの道具が一緒になって、どちらの道具かわからなくなることになりかねない。このため、例えば軟式野球連盟では主な練習会場にしている中学校のグラウンドに、スポーツ少年団で余っていた倉庫を持ってきて、学校長の許可を得て置いているなど、課題の一つ一つを実践研究を通して、解決していきたく考えている。次年度も、引き続きこの3競技について一つ一つの課題を解決していきたく。

今後は、学校の部活動とこの地域スポーツクラブの連携といった点もすり合わせをしながら、方向性を決めていく必要があると考えている。

【委員長】福井県内で同じように部活動について新たな取り組みをしようとしている市町があると思うが、他の市町と連携なども進めているのか。あるいは、地域指導者が不足しているという話も聞くが、福井市に全部取られてしまうことはないのか。

【事務局】県の教育委員会が設置した検討委員会があり、実践研究している市町が集まりいろいろと情報交換をしている。

例えば福井市の剣道では、剣道連盟にたくさんの指導者がいて、もともと子どもの剣道教室を開いていたという話を聞いている。福井市や鯖江市は、かなりの生徒が参加しているので、地域を跨いで部活動の地域移行ができるといいのではという意見も出ていた。そういった意味では、指導者の取り合いにはならないのかと考えている。

一方で大野市の場合は、部活動が各学校で成り立ちにくいという状況になっている。先ほど説明した資料は夏時点の資料であり、サッカー部は開成中学校だけで、1年生から3年生までの人数だが、今は次年度の継続が危うい状況になっている。軟式野球も秋の新人戦に単独で参加できたのは開成中だけで、陽明中と上庄中と尚徳中は3つの中学校の合同チームで参加している状況である。

我々としては、他地域に行ってまでスポーツをするのではなく、大野でも生徒がやりたい競技ができる環境を作っていきたいと考えている。

再編の理念の中にもあるが、最近私がすごく思うことは、やはり子供たちをしっかりと地域に返してあげることがすごく大事だと感じている。

【副委員長】本日、和泉小学校が卒業証書の紙漉きをし、その様子が夕方のニュースで放送されていた。

紙漉きの会というグループの方にお世話になり紙漉きをしているが、その方とお話をしたときに、体験をさせる中で本当に一番伝えたいのは、雪が降ると閉ざされた和泉で生活する中で、冬に何かできるものはないかということで紙漉きを始め、何もできない冬をしのぐ糧にした。人として生きる上での大切なこと、先人の苦勞を本当は伝えたいという話をされていた。

このことは本当に大事なことなので、ぜひ子どもたちに直接伝えてあげてくださいとお願いをした。そのように考えていくと、学校だけではどうしても教え切れないところがあると思った。やはり、子どもたちは小学校の間だけでもしっかりと地域の中で育っていくことでいろんなことを学んでいく。

そうして、中学生になっても自分が土日どういうふうにごすかを自分で選んで、スポーツをやるなり、地域の中で活動するなりということが、これからはとても必要だと考えている。

学校や地域が、そのような環境を作っていくことがすごく大事だと感じている。【大谷委員】中学校の再編準備委員会で4つの専門部会を持って進められているということだが、通学安全部会では乗車時間40分を合わせて、通学が1時間程度と決められたとの説明があった。

これは、往復で通学時間が2時間になる。できれば、1.5キロ以内に設ける停留所をもう少し近くするなど、できるだけ通学に要する時間が短くて済むようにお願いできたらと思う。

【事務局】通学安全部会で、自宅から停留所1.5キロメートル以内で乗車時間を40分程度までとするとされた。

自宅から学校までの通学時間が1時間程度になるが、少し短くできないかというご意見だが、ご説明させていただいた内容は基準はとして、各校区の準備委員会で承認されたものである。

今後は、こういったルートが最適かということ、保護者や学校と協議することとしている。また、冬期の降雪状況によって、スクールバスが決められたルートを走行できるのか、時間はどの程度必要かということも試走して把握している。

子どもたちに負担のかからないようなルートを協議して、時間が短縮できるように考えていきたい。

【清水委員】休日の部活動の地域移行への取り組みで、大野市はどうしても雪が降るので、屋外のスポーツも屋内で活動するようになり、どうしても体育館の取り合いになる。指導者の都合もあるので、この曜日の何時からということが絶対に重なってくる。

時間をずらすなどできればいいが、これだけ施設が多くあっても希望する曜日や時間帯が埋まってしまうような状況になることが今起こっている。

このため、保護者の皆さん考えて、めいりんの場合は例えば月曜日の朝7時に仕事前に皆さんぱっと集まって、利用するチーム同士で相談し合って、活動場所を確保している現状もある。このような現状も念頭に、何か対策していただけたらと思う。

サッカーや野球の場所の整備にも力を入れていただきたい。

他の市町のグラウンドが素晴らしい、あそこの環境いいよねとなると、どうしても保護者もよそに出してしまいたい気持ちになる。

やはり、大野市で出会った仲間と一緒にスポーツして欲しいと思っている。地域移行をすることで、こういったことが増えていくと思う。今の生徒数の状況では、チームを作ることがなかなか難しいと感じているのも事実で、地域移行することの良かった点で、「他校の生徒との交流による技能の向上」とあるが、市内のみinnでチームを作ってやっいていこうとなれば、市内でやろうかと思う保護者も出てくると思うので、活動場所の整備や指導者の確保ができると思い思う。

GIGAスクール構想の推進で、タブレットなどを使った授業が、昨年度からコロナの関係などで学校でもたくさん耳にしたが、どうしてもタブレットやリモートのことに詳しい先生が何人か学校にいないと、後手後手に回ってしまう学校が出てくると感じている。

得意な先生が何人かいると、こうやってリモートでやろうかなどが簡単にできるが、得意な先生がいない学校はなかなか取り組めない。

P T Aの会議で、子どもがコロナに感染した場合などでも、リモート会議にすることが難しかったことが多々あった。せっかくタブレットを子どもたちが1人1台持っているのも、もっと活用していくといいと思う。

また、この地域でしか学べないことを、もっと進めていくと良いと思う。自分が高校に行った時、やはり上庄、尚徳、小山、乾側など、いろいろな地区から通っている人と出会って、それぞれが地域で学んできたことを、高校で学ばせてもらったような気がする。大野市の中でも、地区によって感性や考え方など全部が違っているように感じた。

それぞれの地域で育った環境が違っていて、友人の家に遊びに行った時に、町で育った子にはないものを持って育っていて、そこで教えてもらったことは大きかったよねという話を、先日保育園の保護者とした。

学校は一緒になるが、それぞれの地域で学んだことを持っていて欲しいという希望がある。それが、大野らしさでもあるのではないか。都会では同じような環境で育って出会うのではなく、40分かけて通学するような全然違う環境で育っていることで都会では学べないことがある。全然違った環境で育つ規模なので不便なこともいっぱいあるが、それを楽しみに変えるといった感性的なものを大事にできるような教育にしていけたら良いと思う。

【事務局】部活動の練習会場の確保ということで、このことは課題として挙がっている。例えば、部活動で使用する場合は優先的に確保できないのか、よい環境で活動できないかといった意見を聞いている。現在行っている調査研究の中では、サッカーを例にすると、真名川の河川敷でやっているがもう少しみんなが集まりやすい場所を会場にできないか、河川敷はいろんな制約があって整備ができないため、プレハブやコンテナを置いて道具置き場や更衣室にできないかといった話が出されている。令和5年度から7年度までの推進期間の間に、休日の部活動が少しでもよりよいものになっていくよう、進めていきたいと考えている。

GIGAスクール構想のことは、確かに学校によってICTに強い先生がいる学校とそうでない学校がある。今年度の7月に、教員の免許更新制度が廃止され、新しい研修体制ができてきている。もちろん大野市としてもタブレットの研修を進めていく。令和5年度以降も、ICT教育や教育のDX化の研究にも力を入れて、市町と県で力を合わせて各学校のレベルアップを進めていくと聞いている。

地域で学べる子どもたちは、委員の意見のとおりだと考えている。

例えば、再編で開成中学校には上庄中学校の、陽明中学校には尚徳中学校と和泉中学校の新しい文化が加わって新しい校区になる。それぞれの学校の校風は、全く違ってくると思う。そして、学校が再編されても、地域には子どもたちが残っている。その子どもたちが、自分が住んでいる地域でどう活動していくかということが、これからの地域コミュニティといった部分でとても大事になってくると思う。

小学校と中学校では多少の違いがあるが、乾側小学校が先行再編したが、乾側地区の子どもたちは乾側公民館が中心となり、小学生や中学生、若手が一緒になっていろいろな活動をしていると聞いている。委員の意見にあったところを大事にしなが、新たな学校文化を作っていくことを期待している。

【委員長】一問一答のやりとりではなく、意見交換になった方がいいと思う。今までの話について、こう思うのだということはないか。

デジタル化では、先生方も結構タブレットを今後使いこなしていきたいと思っているが、それをリードしていく先生が数の上では、多くない。引っ張ってくれる方を育てること、これは大学の責任もあるが、大学が早めに手を打てばよかったなと思っている。余談のような話であるが、今月から福井大学は企業からICTの開発をしていた方に、クロスアポイントメントという大学の教員を併任する制度で、企業から来ている方がいる。企業と大学を行ったり来たりしているが、

I C Tをメインにした活動をやられていて、機材の開発をやっている大野出身の方が、大野のために何かやりたいと言っていたので、先生方の研修にうまく活用していただければいいのではないかと。ぜひ、福井大学の方を活用していただければと思う。

【長谷川委員】G I G Aスクール構想の中でタブレットの活用の話があったが、私が今年一年生の娘がいる中で感じたことで、保護者と担任の先生との面談の機会があったが、それがコロナやいろいろな関係で1回流れて、再度日程を調整してということになった。その際は、私の妻が学校に行って先生と面談ということになったが、それこそウェブの面談でもいいのではないかと感じた。

学校と子供の間での学習のツールとしての利用はもちろんだが、先生と保護者が時間調整して学校へ移動するといった負担感を考えると、P T A活動や学校と保護者間でもタブレットの活用が一層進んでいくと良いと感じた。

私が中学校の時と比べて、今は随分部活が減ったという印象を受けた。何となく部活動がたくさんあり、その中から自分のやりたいスポーツを選べたと思う。

今は、これだけ部活動の種類が少なくなると、どの部活に入ろうかなと迷われる子どももかなりいるのかなと思う。今年から娘がスポ少でバドミントンを始めたが、開成中の区域になるのできっと部活動でバドミントンができないと思う。この地域委託にしていく中で、そもそも学校の部活動に入らないといけないということが、前提になるのか。何か一つの部活に入りつつ、今しているスポーツも続けたいとなったときに、本人の負担になることも多いし、親のサポート面での負担も正直増えてくると思うので、そのようなことも含めてお話を伺いたい。

【事務局】学校の部活動数がこれだけ減ってくると、将来的な不安を感じると思う。先日、大野市出身の大藤愛さんが、フリースタイルスキーのエアリアルで優勝したことが新聞掲載されていたが、彼女が中学校の時は、確か勝山市のランポリンの教室で腕を磨いてたが、そのころは部活動に全員が加入しなければいけないということで、文化部に籍だけ置いて教室に通っていた。今でいえば、硬式野球でも文化部に籍だけ置いて、野球の練習のないときに部活動に参加することになるが、これは考えてみるとあまり健全な形ではないと捉えている。

このため、昨年度に全ての中学校が、学校以外の活動も部活動に準ずる活動として認めて、別に文化部に籍を置かなくても良いことになった。

学校の部活動以外の活動が、地域移行の部分になると思う。これまでだと、開成中学校にはバドミントン部がないのでどの部活に所属しようとなっていたことが、

スポーツ少年団が中学校のバドミントン部の受け皿になったのであれば、そのままそこで活動していくということも、将来的には考えられる。

先ほどから、いろいろな課題が出てるが、本当に学校の部活動と地域スポーツクラブが、今いろいろなところで過渡期にあって、しっかりと推進期間の間に新たな部活動のあり方を考え、整備をしていきたいと考えている。

大野市の中学校は、来年度の新生から部活動の加入は任意になり、加入しないも自分で選べる形になる。また、土日の部活動への参加は、今のところ希望制になることを追加でお知らせしておく。

【南委員】少し前に指導者同士の集まりで、中学校に行ったら野球をしたい子はどうするのかという話になった。現状では、硬式野球チームがあって、軟式の部活動がある。野球に限って言えば、中学校から野球やりたい男の子がいて、女の子もいるということを知っている。そのような子どもたちの希望を、どのように聞いてあげられるのかなと思う。部活動が地域移行され、受け皿がクラブチームになるが、人数が少なくなる中でうまく活動ができるのか。

【事務局】スポーツ少年団で野球をする子どもの数が、かなり減ってるということ、軟式野球連盟も心配している。

スポーツ少年団がない頃は、中学校から野球を始めることが当たり前で、硬式野球はなかった。今は、スポーツ少年団で野球をやっていると、硬式に憧れる子どもも出てくると思う。

軟式野球連盟では、中学校から野球を始める子どもたちを増やしたいと言っている。性別にかかわらず、中体連の試合も一緒なチームで出られる。

サッカーも同じで、性別に関係なく子どもたちがやりたいスポーツに親しんでいくということが、大野市の部活動に対する考え方が一番基本になってくるところだと思っている。

### (3) 教育制度の現状や展望について

#### 【松木委員長から説明】

学校の再編について、少子化、デジタル化、教員の三つの視点から考える。

- ・地球の人口は、今世紀末には100億人を超すとされている。
- ・世界規模の人口増加で、食糧危機が起こる。
- ・食糧増産のための耕作地拡大は、森林破壊につながる。
- ・カーボンニュートラルと、相反する活動になる。

- ・世界的に、地球規模では、人口増加が大きな問題になっている。
- ・反面、日本は今世紀末に約5,000万人に減少すると言われている。
- ・5,000万人は、江戸時代末期の規模と同等である。
- ・少子化という現実を、もっとシビアに考えていかなければならない。
- ・単純な数合わせなら、大野市は1中学校2小学校の規模になる。
- ・学校を、知識を覚える場とするなら、その方が効率的である。
- ・子どもの数が減るから学校を統合する、という単純な問題ではない。
- ・学校は地域づくりの拠点で、子育てが相互育ちの機会である。
- ・学校が離れることで、彩が育つ機会も離れることになる。
- ・地域の協力を得て、子どもが自分たちで考えて活動している学校もある。

長野県伊那市 伊奈小学校（通知表、チャイム、時間割のない学校）

- ・子どもたちの活動を通じて、地域の大人たちも学んでいる。
- ・学校と地域と一緒に活動することが、地域を作り子どもが育つことにつながっている。
- ・単純な数合わせではなく、大野に役立つ方法がないか考えないといけない。
- ・福井大学に、ケニアからの留学生が居ていろいろ話を聞いた。
- ・日本では、お金を持っていないといけないので不便と言っていた。
- ・ケニアは、みんなスマートフォンを持っていて、キャッシュレス決済が普及している。
- ・スマホに関するインフラ整備は、世界中で進んでいる。
- ・日本では、銀行に対する信頼がありお金のやりとりができる。
- ・アフリカでは、銀行に対する信頼がなく、デジタルの方が入りやすいと言っていた。
- ・今まで安定した社会を作るためにしてきたことが、デジタル革命の中で考え方を変えなければならない時代が来ている。
- ・不登校の教育支援で、メタバースを活用する事例がある。
- ・実際に中を覗いてみたが、まだまだ改良の余地がある状態である。
- ・バーチャルの世界に移行することは、学校の中でもこれから増えていく。
- ・アバターを使って、自分の顔を出さずに活動できることで、不登校の子どもにとって学校活動に参加できる機会を作ることになる。
- ・それで学校が成り立つのか、得られるものがある代わりに失われるものもあるのではないかと危惧している。

- ・新型コロナが流行し、マスクの着用が当然として3年間学校生活を送ってきて、マスクを外したくないと言っている子どももいる。
- ・生の自分ではないところで、人とのコミュニケーションをしたいという気持ちが、若い人たちの中にたくさんある。
- ・何か学ぶ時も、自分ではなくアバターに活動させながら学ぶことが、当たり前になってきている。
- ・そのことが、特別なことかと言えばそうでもない。
- ・私たちが服を着て外へ出ることは、生の自分を出しているわけではない。
- ・服を着て、着飾って外出することは、現実の世界ではあるが、アバターを使ったバーチャルの世界に通じるものがある。
- ・人類の歴史で、我々が初めからやっていることは、考えて、行動して、課題があればまた考えて、他人と意見交換して、また行動すること。
- ・その繰り返しで、人類を進化させてきたことにつながっている。
- ・今風でいえば、PBLのような活動になる。
  - ※PBL：「Project Based Learning」の略で、課題解決型学習と呼ばれる。
- ・みんなで課題を見つけ、解決するための方法を考え、意見交換して、みんなが知恵を絞って考えた解決方法を、みんなで行動する。
- ・部活動のことも、あてはまるのかもしれない。
- ・教育委員会がすべてを用意するのではなく、自分たちの子どものためにどうした良いか、子どもたち自身がやりたいことをするためにはどうしたら良いのかを考える。
- ・考えを行動に移して、教育委員会と交渉する、あるいは指導者に自分たちでお願いに行く。
- ・自分たちで作りに上げていく力が、デジタル化が進めば進むほど必要になってくる。
- ・そういった力がないと。デジタルの世界を生き抜くことは難しい。
- ・アバターを動かす力は誰もが持っているが、自分たちが活動して何かを作り出すことも並行してやらないと、これからの時代を乗り越えていくことができない。
- ・国も、そのような方向に教育を変えてきている。
- ・今までは、どれだけたくさん教科書のコンテンツを覚えられたか。それを、上手に子どもたちに教えることができたか。という教育のあり方だった。

- ・それが、身近な問題を自分たちで考え、自分たちで解決していく。
- ・そのことを、先生たちがどのように支えることができるか。
- ・そのような学校に変わっていきましょう、というように学習指導要領が大きく変わってきている。
- ・デジタル化が進めば進むほど、人間が失ってはいけない活動の在り方ということが、絶えずセットになると考えている。
- ・このことは、日本だけでなく世界中で起こっている。
- ・福井大学に、エジプトから約40人の教員が研修に来ていた。
- ・日本型の学校を200校ほど作ったので、行事や給食など日本では当たり前になっていることを学びに来た。
- ・西洋型の学校では、いわゆる知徳体を分かれて教えている。
- ・知は学校で先生が、徳は教会で神父が、体は地域の部活動やクラブチームでコーチがそれぞれ役割分担している
- ・エジプトでは、先生が子どもたちと一緒に登校して、授業を行って終われば帰るので、学校に職員室がない。
- ・これではだめだということで、エジプト政府が日本の教育の仕方にいいところがあるということで、先生を研修に派遣された。
- ・日本では、教員の働き方改革が進められているが、知徳体を先生がすべて教えることに良さがある。
- ・全部やることで、子どもたちの資質や能力のすべてに関わることができる。
- ・その部分が良いと、エジプトでは考えられている。
- ・知識を教えるのではなく、それを支えているベースになる資質や能力、例えば頑張る力やレジリエンスと言われる、何か失敗した後にくじけずに立ち直る力をつけることが今の社会に必要で、分業では教えられないとエジプトでは考えられている。
- ・役割を分担するのではなく、学校で教えるために、培うためにはどうしたら良いのかを研修に来ていた。
- ・エジプトの先生の話聞いて、日本の教育でも捨ててはいけないものがあるのだと感じた。
- ・今、教えることの専門家から、子どもたちの学習をサポートする専門家へと、日本の先生は大きくチェンジしようとしている。

- ・子どもたちの学習をサポートする組織としての学校、それを作ることができる専門家としての先生となるよう、国を挙げて教育観を変えていく作業をしている。
- ・デジタル化が進んでいく社会になるからこそ、このようなことが求められている。
- ・少子化とデジタル化、新しい教育をつなげると、いくつかの可能性があると思っている。
- ・例えば、子どもたちのカウが少なくなれば、ICTを使うべき。
- ・教室にモニターがあり、学校同士をつなげれば、朝からそのモニターを介して、子ども同士のいろいろな交流ができる。
- ・ICTを授業に使うというよりも、ICTがそのまま日常の学校生活に組み込まれるような形になると、距離の問題を解決できる。
- ・両方の学校に先生がいるので、それぞれが得意な教科をモニターを介して教えることもできる。
- ・授業をしていない先生は子どもたちのサポートに回って、その先生自身も学ぶことができる機会が生まれる。
- ・このためには、学校ごとに先生が組織されるのではなく、建物は違っても大野市の学校をすべて一つの学校に見た立てて組織することが必要である。
- ・再編で必要なことは、子どもやPTAの組織だけではなく、教員の組織も学校という単位を残しつつ、それぞれの学校を統括する組織づくりを考えないといけない。
- ・先ほど部活動の話があったが、すでに部活動は学校の枠を超えている。
- ・学校だけでは収まりがつかず、大野市全体を見てみんなで部活動のあり方を考えようと踏み出している。
- ・これからは、部活動だけでなく学校での授業や生活も同じような形なるか、より良い形をみんなだ考えていけるような仕組み作りが必要である。
- ・少子化が進み、同時にデジタル化を進めざるを得ない。
- ・デジタル化には良い点もあるが、問題点もある。
- ・その問題点を克服していくことを、学校の教育活動の中に取り込みながら、最大限にICTを活用していく。
- ・実現のためには、子どもの組織、保護者の組織を考える必要がある。

- ・特に地域と子どもたちが、相互に教育し合うことができる環境を作り出していくためには、保護者と地域の役割は大きい。
- ・加えて、教員が学び続けることができる組織づくりを、同時に考える必要がある。
- ・このようなことが、大野市でいくつか芽が出てきている。
- ・その芽を、みんなでどのように育てていくかがこれから問われていく。

【副委員長】委員長からのお話をお聞きしてる中で、これからの時代を考えるには、既存の枠組みにとらわれてたら駄目だと感じた。

バーチャルの世界という、個人的にはまだまだ縁遠い話だが、子どもたちの中ではかなり進んでいる。

今までの、私の中の狭い枠組みでそのことを理解しようと思っても難しいので、枠にとらわれずに考えることが必要だと感じた。

#### (4) 今後の大野市の教育に関する意見交換

【大谷委員】今は、小学校単位で学校運営協議会が組織されているが、コミュニティ・スクールに移行されるのはいつになるのか。

【事務局】新しい国型のコミュニティ・スクールは法に基づくもので、さらに地域の方々にも責任を持っていただくような役割になる。

これは何か責任を押し付けるのではなく、一緒に取り組んで行こうという意味合いである。

新年度から、早速国型のコミュニティ・スクールに移行する取り組みを進めていくことになる。

【大谷委員】大野市内には、8つの地区がある。その一つに小山地区があるが、その地区から新庄区という行政区が今年の4月から大野地区になるための作業が今進められている。

大野地区には、認定こども園と小学校、中学校、高校がある。将来的には、何がいいのかわからないが、例えば県立大学のキャンパスや恐竜に特化した学部の誘致など、高等教育機関があっても良いという思いをしているので、要望として意見を述べておく。

【清水委員】お話を聞いて、保護者の成長というのが大事なのかなと感じている。

学校で学ぶことも必要だが、まずは家庭なのかなという思いを持っていて、おじいちゃんおばあちゃんも含めた家庭で学んだことを、学校に行って共有してみんなで学んで、いいこと悪いことが出てきて、そこでまた学ぶと思う。

P T Aは任意団体で、加入してもしなくても構いませんという団体であるが、どうかご協力をお願いしますという形で進んでいるのが現状である。

最近のニュースでよく取り上げられているのが、いろんな市町でP T Aを脱退する人が増えているということも出ている。入学時に、加入するかしないかといった文書を出して、承諾を取る地域も出てきている。福井県でも、そういう問題が起きている地域もある。

地域ごとに違った教え方や、特色がある子どもの育て方をするというようなことを、大野だからできることなどをもっとやっていくべきだと思う。

働き方改革で、教師がこのようになっていくではなく、大野はこういう子どもを育てたいからこうするというような教育ができれば、大野ならできると思う。

すごい知識が豊富なお年寄りが、まだまだ元気で残ってるので、I C Tを活用してリモートでおじいちゃんおばあちゃんに授業してもらってもいいと思う。農業のこと、星の子となどそれぞれの分野に特化してる人に授業をしてもらえたら、そんな幸いなことはないのかなと感じた。

この大野でできることがあると思うので、子どもに教えるということたくさん考えていけたらいいのかなと思う。

みんなで考えて、行動して、保護者も熱くなっていい方向に持っていけるようなことができれば良いと思うが、実現にはなかなか難しい現状がある。

【南委員】委員長のお話を聞いて、今の発言と同じようなことを感じていた。教員の同級生から、やったことない部活の顧問をするのは、仕事だから仕方ないけど正直しんどいということ聞いたことがある。

大野なら、地域の人でいろんな知識を持ってる人に指導などをお願いして、先生方の働き方改革とうまく折り合いがつくような形になれば良いと思う。

大野ならではの何かができるのではないかと思い、そのことが実現できるようになっていけたら良いと感じた。

【長谷川委員】今日のお話を聞くまでは、子どもが減ってるのだから、学校を再編すればよいと思っていた。数で言うと小学校2校、中学校1校で十分だと、本当に短絡的に考えていた。

お話の中で、学校が保護者をまた育てることや、地域も育てていくんだということがあって、自分もまだまだ育ててもらっているんだと痛感した。

数が少ないながらも、まだ生かしきれてない大野のポテンシャルのようなものが、きっとたくさんあるだろうと、何となくずっと大野に住んできて漠然と感じている。何からして、良いところをすぐに見つけることは難しいと思うが、そういったものを活用して、大野市全体が良い方向に動いて行くことに期待している。そういったことに、微力ではあるがお手伝いできたらと考えている。

【副委員長】皆さんの話を聞きながら、学校の再編を機会にして、子どもたちにとって本当に良いものにしていく、その責任がすごくあるとひしひしと感じている。

今、大野らしさということが皆さんから意見出ていたが、「大野の教育を新しく見つめ直す機会として捉えている」と教育長がよく言われているが、再編をすることは教育を良くしていく機会だと感じている。

来年度末には中学校再編され、その2年後に小学校が再編される。中学校の再編が行われることで、いろいろな課題などが出てくると思うが、そのことをまた小学校の再編に生かして、子どもたちにとって良い環境になるようにしっかり考えていく責任を感じている。

そういう意味でも、皆さんのご意見が本当に勉強になった。

【教育長】今、中部縦貫自動車道や北陸新幹線の開通など、県内でも騒がれているが、教育界や子育てにとって大野市ではこの学校再編がビッグチャンスだと思っている。すべてのことが、この学校再編を核にして進んでいってもらえるとありがたいと思っている。

令和元年は再編計画の見直しに関する意見交換会を40回、令和2年度に検討委員会を7回、令和3年度に再編計画（案）の説明も含めた意見交換会を21回開催してきた。顔を合わせて意見交換し、その模様をリモートでも配信している。大野市民として、語り合っただうしていこうかと知恵を出し合ってる。これ自体が、大野市のまちづくりだと私は思っている。

他の市町では、部活動の移行、GIGAスクールなどいろいろと言われているが、大野市の場合には学校再編がすべての核になっている。

令和6年度に中学校を再編し、令和8年度に小学校を再編するので、この期間に大野市としてどうしていくのかということが、少しずつ見えてくると思っている。

後塵を拝することを良しとせず、大野市が自分たちの姿、形を求めて、とにかく前向いて頑張っていきたいと思っている。

そして、その1点は「子どもたちのために」ということに尽きると思っている。  
【委員長】皆さんからご発言いただき、最後に教育長からも決意表明されて、本当にありがたく思う。

以上で閉会とするが、本日の会議の要点等を事務局でまとめて、教育委員会へ報告いただくこととする。

## 5 その他

――事務局から事務連絡――

## 6 閉会

【副委員長】会議冒頭の教育長のあいさつにあったように、再編計画が決定されて今実際に再編に向かって進んでいる。

そのような中であっても、この会議のように新しい大野の教育環境の形を話し合う場があることは、本当に素晴らしいことだと思う。

先ほども申し上げたが、実際に計画を進める中で、やはりいろいろな問題も明らかになってくるし、実際に再編されることでまた新たな問題点や効果などが明らかになると思う。

また、委員長からのお話もあったが、ICTの問題は本当に我々の想像を超える速さで時代が変わってきている。

再編でひとまず一区切りをつけて終わってしまうのではなくて、そこからさらに先に向けて議論を進めていくことは、本当に価値のあることだと考えている。

今後とも、皆さんからいろいろなご意見をいただくことで、大野の教育にいろいろなプラスの効果があるのえはないかと思っている。

本日は長時間にわたり意見交換いただき、お礼申し上げます。

終了 午後9時15分